

【CDのリッピングに関するメモ】

(2018/11現在の情報)

- ◎CDリッピング用ドライブは器械に依ってかなりの差がある。
プレクスター、パイオニアが総じて評判が良く、前者は実際にその良さが確認できた。
(但し現在、前者は販売終了。後者の内蔵型が現行品ではトップクラスだが外付け型も充分使える)
機種(あるいはメーカー)によりデータ補正(読込&訂正)方法が異なり、これが主なる音の違いのようだ。
- ◎外付けのプレクスター(メガネタイプ)では電源ケーブルの差、プラグ極性の差もハッキリ分かった。但し、リッピングに関しては接続用USBケーブルの差は判別出来なかった。
- ◎デスクトップパソコンでもPW-8000等、良質の電源ケーブルの効果がみられる。
プラグ極性の差も良く分かる。
- ◎リッピング用ソフトは多少不便さはあるもののEACがお薦め。
他のソフトと大きな差がある。ドライブ固有の「オフセット設定」は出来れば指示通り行うのが望ましい。(慎重に聴き比べれば確かな差が聴き取れる)
- ◎リッピング時、データを書き込むドライブはハードディスク、USBメモリー、SDカードいずれも差はなかった。
- ◎一度、ハードディスク等の仮想CDドライブにコピーしてからリッピングというアイデアもあるが音は良くはならない。コピー時に送り出されるデータで結果が決まるようで音は全く変わらない。

【PC再生時のメモ】

- ◎音の良さはSDカード、USBメモリー、ハードディスクの順になる。
(但し前2者の差は僅か)
つまり「ハードディスクでリッピングしてからSDにコピーして再生」の流れがお薦め。
SSDメモリー式のパソコンではコピーの作業は不要になる。
- ◎たまたまテストしたデスクトップ(NEC)とノートパソコン(レッツノート)では同じメモリーカードでも後者の方が若干良かった。次にUSB2.0のポートと3.0ポートの差だがこれは大変微妙で難しい。というのは明らかに差は有るがどちらが良いと感じるかは曲やシステムのチューニング具合で変わってしまうため。一度は実際にお試しあれ!
USB-2WDPのような二股ケーブルを使う時はデータラインをUSB 3.0のポートに挿し電源ラインを2.0のポートに挿すのがよい。逆にすると3.0のポートの良さが引き出せない。
- ◎再生時のUSBケーブルは「天と地」程の差が出る!
現時点ではUSB-1WDPが最高のパフォーマンスを示す。また「ケーブルは短い方がよい」というのも定説通りだが弊社のUSB-1WDP、USB-2WDPに関しては長短の音質差

は非常に小さい。

◎ノートパソコンではACアダプターを繋げた方が良かった。
デスクトップ、ノートパソコンいずれも電源ケーブルの差、プラグの極性差が聴き取れる。
(ノートは素早くテストできるがデスクトップは終了→ケーブル差替え→起動の繰り返して
実に時間が掛かりじれったい！)

◎再生ソフトはWindows Media Playerがお薦め。(現用バージョンは12.0)
ネット上の評価は良くないがそれは不適切なデバイス設定によるものと思われる。
サウンドデバイスの設定を以下の通り行なえば(つまりネックになっている不要な音加工
プロセスを総てジャンプすれば)、「音の基準」とされるWave File Player(Wav専用ソフト)
等と比べても全く差が聴きとれないほどのグレードになる。
ソフトアッテネータも音の劣化が少なく標準ソフトだけに各操作性が良いので、なおのこと
お薦め。

デバイスの設定は・・・

『DD-7000U/S等のUSB機器を接続した状態で、
コントロールパネル→ハードウェアとサウンド→オーディオデバイスの管理
→USB Audio DACを選択→プロパティ→音の明瞭化→「すべての音の明瞭化
設定を無効にする」にチェック&詳細→16ビット、44100Hz(CDの音質)』
(48kHzの設定にすると、この出力に合わせ波形を演算しなおすので音が相当悪くなる)

◎USB→S/PDIF変換器は各社、相当な音質差がある。
手前みそながらCDのリッピングデータ用に特化したDD-7000U/S(～48kHz,
16ビット仕様)がお薦め。高純度アナログ部品がものをいう！
また、S/PDIF信号を忠実にD/Aに送り込むにはDG-7000Aがお奨め。

【まとめ】

◎現時点で以上のベストの組み合わせならば現行最高級CDトランスポート(¥100～200万)
の音に匹敵する音(デジタル出力)が得られる。(これをも超えるか?は今後の検証待ち
で安易に結論は出せない)
ここで高性能なD/Aコンバータをお持ちなら最高グレードの音質が得られるが、WAV
ファイルをコルグのオーディオゲート3で5.6MHz DSDファイルに変換し同じくコルグ
USB・DAC(DS-DAC-10等)で再生すればローコストながらこれに迫る音が楽しめる。
(但し5.6MHz DSDファイルではWAVと比べても8倍程のファイルサイズになるのが
欠点。仮に一枚600MバイトのCDデータが4.8Gバイト、更に今後期待されるという
11MHz DSDなら9.6Gバイト必要になる。また当然ながらCDをベースにしたDSD
データファイル再生では元のCDの音を絶対に超えられないことを念頭におきたい)

参：旧オーディオゲートよりV3の方が明らかに音が良くなっている。

◎現状FLACはテストから外している。これはEACの基本変換フォーマットがWAV形式
である為でWAVと本当に差が無いのならFLACの積極利用を推奨したい。
(ファイル縮小のみでなく、CDジャケット写真やその他のデータを取り込みやすい為)

――以上――